

○支那料理ニ用ヰラル、珍茸『竹蓀』(口繪參照)

理學博士 川 村 清 一

蕈類ニハ形ヤ色ノ種々ノ者ガ多イガ就中腹菌族ノすっぽんたけノ類(*Phalloids*)程形狀、色彩ノ奇抜ナ種類ヲ多ク包含シテ居ルモノハ他ニ無イト云ツテヨイ位デアル、茲ニ本誌本號ノ口繪ノ寫眞ニ示スモノハ即チ其ノ一デアツテキヌガさたけ又ハコムソウだけト呼バレ各地共其發生ヲ見ルモノデ多クハ竹蓀ノ内等ニ生エル、莖モ網ノ「マント」モ共ニ純白デ實ニ美麗デアル、蓋ハ表面ニ惡臭ヲ放ツ青黒イ粘液ガ附着シ胞子ハ其中ニ混ジテ居ル惡臭ノ甚シイ爲ニ昔カラ毒菌ト見做サレタリ又外國デモ現ニ今丸善書店ニ來テ居ル米國ノミユリル氏ノ「食用及有毒菌」(MURRILL, Edible and Poisonous Mushrooms. 六十分錢 價金四圓)ト云フ書ノ中ニ毒菌トシテ彩色圖デ示シテアル位デアルガ元來此菌ニハ何等毒性ガナクテ惡臭ヲ發スル粘液ヲ洗ヒ去ッタ後ハ結構食用トナルモノデアル

●支那料理ニ用ヰル竹蓀(満洲デハ竹參トモ稱スル)ト云フ者ハ本菌ノ脚苞(Volvæ)ヲ去リ蓋上ノ粘液ヲ洗去ツテ日ニ乾シタモノヲ標本トシテ小生ノ許ニ送ラレタモノニハ名ヲ竹笙(chok-san)ト云フトアツタ又夫レヨリ以前キテ居ル、曾テ(明治四十五年五月)故遠藤吉三郎博士ガ歐洲旅行ノ途次、支那ノ廣東ニ寄港シテ同地ノ乾物屋デ買ツタモノヲ標本トシテ小生ノ許ニ送ラレタモノニハ名ヲ竹笙(chok-san)ト云フトアツタ又夫レヨリ以前ニ矢部吉禎博士ガ北京カラ持歸ラレタ標本ヲ見タコトガアルガ孰レモ乾品ヲ數個ヅ、東トシテ赤色ノ太イ絲デ括ツテアツタ

●此菌ハ東洋ニ多クテ歐米ニハ極メテ稀ナモノデアルカラ西洋ノ書物ニハシナビタ様ナ寫眞カ又ハ拙イ寫生圖ガ載セラレテ居ルニ過ギナイノニ日本デモ今迄ノ書物ニ現ハレテ居ル本菌ノ圖ハ大抵ハ西洋ノ書ノ圖ヲ基ニシタモノデアルガ本菌ノ本場所ハ日本ヤ支那デアルカラ宜シク生キタ標本カラ撮ツタ寫眞ヲ用ウベキデアル、此口繪ニ掲ゲタ本寫眞ハ我輩ガ所有スル菌ノ寫眞中最モ佳良ナモノ、一デアル

●本菌

ノ學名、*Dictyophora phalloidea* Desv. ト其異名トシテ、*Phallus indusiatus*. 及^ウ *Hymenophallus indusiatus*. ガアル又 *Dictyophora tahitensis*. 並^ウ *D. speciosa*. ムクムクノキ本菌ノコトデアル

「靈藥〔ミシシッパン〕ノ原料植物 よひんぐ樹

○靈藥〔ミシシッパン〕ノ原料植物 よひんぐ樹

薬學博士 刘米達夫

よひんぐ樹ノ幼木

大正八年二月六日リ米達夫氏、鏡シク撮影シタルモノ



Pausinystalia Yohimba, PIERRE.
(=Corynanthe Yohimbe, K. SCHUM.)

よひんぐ樹 ハアフリカニ産スルあかね科
(Rubiaceae)ノ喬木植物デ學名、*Pausinystalia Yohimba*, (K. SCHUM.) PIERRE.
ト呼ビ催淫藥〔ミシシッパン〕Yohimbinハ
原料植物デアル ● 本植物ハ主トシ
テ西アフリカノカメルーン Cameroonニ
ゼリア Negeria 佛領 Congo 等ノ
諸地方ニ產シ同地方デハ土語之ヲ「ヨヒ
ンペー」ト呼ビ土人ハ舊クヨリ催淫藥ト
シテ使用シテ居タノデアルガ一八九六年
獨人スピーゲル氏 SPIEGEL ガ初メテ之ヲ
學術的ニ研究シ其有效成分ヲ結晶トシテ
分離スルコトニ成功シタ同氏ハ此成分ヲ
「ミシシッパン」ト命名シ其製法ニ就テ獨逸